

■「さいたま緑の森博物館」を訪ねて [埼玉県入間市]

工事中でも通常通りの開館が可能に

低臭性のフォレステージで木部塗り替え

自然環境そのものを展示物とするフィールドミュージアム「さいたま緑の森博物館」。開館16年目を迎えた2011年度、県では外壁塗り替えや部材取り替えといった改修工事を実施した。木材保護塗料として採用されたのは、溶剤の臭いを抑えたキシラデコールフォレステージ。設計を担当した、ところさわ一級建築士集団代表取締役の佐藤亮一氏に、採用に至るまでのいきさつを聞いた。



ところさわ一級建築士集団 代表取締役 佐藤 亮一 氏

深い緑の雑木林の中、どこからともなくウグイスの声が聞こえてくる。埼玉県入間市の「さいたま緑の森博物館」では、保全された里山の環境そのものを展示物にする。頭で理解するより五感で感じる博物館だ。埼玉県が1995年7月に開館した。

施設内の建物には自然と木材を用

いるが、一帯は湿地であることから、木材保護塗料での塗装は欠かせない。開館16年ともなれば、木部の状況に応じた塗り替えや部材取り替えなども必要になる。県では2011年度、これら改修工事に踏み切った。2011年10月、指名競争入札で設計を受注した、ところさわ一級建

築士集団代表取締役の佐藤亮一氏は、外壁塗り替えで木材保護塗料としてなにを用いるか、まずその検討から入った。鉄筋コンクリート造や鉄骨造の公共建築を扱うことの多い佐藤氏にとって、木材保護塗料にはそうなじみがなかった。

「県からは3つの製品を候補に上げるよう求められていました。建築士の知人に聞くと、2つの製品を勧められました。もう一つ、別の製品を自ら探し出し、それらの資料を取り寄せようと、取り扱う各社に連絡を取りました」(佐藤氏)

コスト、実績、性能を比較 工事中も開館で低臭性評価

木の風合いを生かすという考え方から、いずれの製品も、表面に膜を張る造膜タイプではなく内部にしみ込む含浸タイプ。2011年11月には資料をもとに検討した結果を基本計画として県に提出した。その段階で佐藤氏が比較したのは、コスト、実績、性能の大きく3つの観点だ。

「コストはそう大差はありませんでしたが、なにより実績という点でキシラデコールが勝っていました」と佐藤氏。性能面では、キシラデコール

フォレステージの低臭性を評価した。「工事中でも博物館を閉館するわけにはいかなかったので、溶剤の臭いが抑えられている点も評価していました」(佐藤氏)

各社営業担当者の3社3様の対応の中で、「キシラデコールフォレステージを扱う日本エンバイロケミカルズの営業担当者には、さまざまな場面で助けられた」と佐藤氏は感じている。そうした経験に基づく信頼も、製品選びに効いた。

経験に基づくアドバイスがメーカーへの信頼感を生む

「問い合わせのメールを送ったら、すぐに返事をいただき、事務所に訪ねて来られました。その後、腐朽箇所の補修用パテとしてどのようなのがいいかなど、不明点を教えてもらうこともありました。豊富な経験に裏打ちされたノウハウをお持ちなので、それに基づくアドバイスは役に立ちました」(佐藤氏)

基本計画の段階でキシラデコールフォレステージを推したかいがあって、施工の段階でもそれが採用されるに至った。塗り替え工事は、

▶自然環境の中に立地する施設に適した塗料

さいたま緑の森博物館 指定管理者 自然教育研究センター 現場統括責任者 長谷川勝氏



埼玉県の指定管理を受託して2012年度で2年目に入ります。管理を始めた当初、改修工事の前は、木部は白っぽくなって、クマバチが巣を作ったり根元が一部傷んだりしていました。この一帯は湿地で湿気が多いことから、木材にとっては厳しい環境です。木部の防霉措置は不可欠と言えるでしょう。

木材保護塗料の色決めは施設管理者に委ねられているということで、わたしが色見本から選びました。自然環境の中に立地する施設なので暗めの色にする背景に溶け込んで分かりにくい、ムクの木材に近い色にしたい、との思いから「スプルース」に決めました。

改修工事は2012年1月から3月まで掛かりました。塗装工事とはいえ、塗料の臭いは気になりませんでした。工事中も通常通り開館しましたが、苦情は一切来ませんでした。自然環境の中に立地する施設として、臭いが気にならないということは、人や生物に影響を及ぼさないということですから、重要です。そうした立地の施設に用いる塗料として適していると思います。

指定管理の受託期間は5年間。この間、木部の様子を日常的に見守りながら、次の塗り替えを提案することになるのでしょうか。財政難の時代だけに、きちんとした維持を心掛けます。(談)

2012年1月から3月まで。塗料の乾燥に時間の掛かる寒い時期だった。

設計監理を必要としない案件で、現場にはそう出向くことのなかった佐藤氏は、発注者である県の担当者からかかってきた電話で実際に臭いが抑えられていることを聞かされ、2月半ばのある日、自ら現場に足を運ぶ。「現場では確かに、臭いは気

になりません。本当に溶剤系の塗料なのか、疑ったほどです」。佐藤氏は驚きを隠さない。

屋外という環境も手伝って、改修工事を施した現場では、いまま塗料の臭いは感じられない。自然環境の中に人が集い、五感を開放する施設だからこそ、キシラデコールフォレステージの低臭性が生きている。



「さいたま緑の森博物館」。狭山丘陵に残る里山の環境をそのまま展示物代わりにするフィールドミュージアムの形態を取る。来館者数は2011年度の実績で約3万3000人。案内棟と展示棟で構成する「自然ふれあい施設」は、スギやマツなど木材をふんだんに用いる。改修工事ではアプローチの橋の部材取り替えも実施した



木材保護のトータルソリューションパートナー

日本エンバイロケミカルズ株式会社



キシラデコール®

JASS18 M-307 適合品



木材保護塗料部門 1位
「建材・設備メーカーランキング」
(日経アーキテクチャ2011年12月10日掲載)



キシラデコール
フォレステージ

販売販売 日本エンバイロケミカルズ株式会社
〒105-0014 東京都港区芝二丁目5番10号 芝公園NDビル3階

大阪 〒550-0023 大阪市西区千代崎三丁目南2番37号 ドームシティガスビル ☎ 06-4393-0054
東京 〒105-0014 東京都港区芝二丁目5番10号 芝公園NDビル3階 ☎ 03-5444-9860
☎ 0120-124-123 www.jchem.co.jp

【お問い合わせ】 [キシラデコールに関する情報満載! ▶ www.xyladecor.jp]